

平成26年度 第2回 鎌倉市社会資本整備総合交付金評価委員会 議事要旨

日 時：平成27年1月23日(金) 10:00～11:15

場 所：鎌倉市役所本庁舎4階402会議室

出席者：【委員】 志村 直愛(東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科教授)

梶田 俊夫(雪ノ下岩谷堂町内会会長)

高橋 公一郎(公益社団法人鎌倉市観光協会課長)

【事務局】 下平 和彦(経営企画部経営企画課担当課長)

鈴木 康之(経営企画課公共施設再編推進担当担当係長)

岩元 理恵(経営企画課公共施設再編推進担当)

坪田 慎介(経営企画課公共施設再編推進担当)

【事業課】 森 明彦(都市整備部道路課担当課長)

小谷野 祐文(都市整備部道路課整備担当担当係長)

山戸 貴喜(市民活動部観光商工課課長補佐)

【業務協力】 稲垣 義一(国際航業株式会社)

長山 和未(国際航業株式会社)

次 第：

1 開 会

2 審議事項

事後評価(案)について

(1) 事後評価の実施概要について

(2) 事後評価の結果について

3 今後のスケジュールについて

4 その他

資 料：

・資料1：委員名簿

・資料2：第1回評価委員会議事概要

・資料3：第2回評価委員会説明資料(パワーポイント印刷資料)

・資料4：鎌倉駅周辺地区都市再生整備計画(第4回変更)

・資料5：事後評価シート(案)

・資料6：事後評価の概要

・資料7：事後評価(原案)に対する意見募集の結果

■議事

1. 開会 庶務事項	
志村委員長	前回欠席の高橋公一郎委員に本日参加頂いているので、一言ごあいさつを頂きたい。
高橋委員	鎌倉市観光協会の課長を務めている。観光客の目線で参加させていただければと思う。
事務局	(庶務事項) ・参加者の確認。 ・傍聴人についての報告。(傍聴者3名) ・配布資料の確認。
2. 審議事項	
事務局	・鎌倉駅周辺地区の事業概要について説明。 ・事後評価の結果について説明。
志村委員長	説明頂いた資料が国に提出するものになってくる。今回の委員会での審議内容を反映していければと思う。
高橋委員	指標2について、元々の満足度が低いためかと思われるが、他の指標と比較しても目標値が低く設定されている。元々の数値が低かったから低く設定されているということか。
事務局	計画を立てる際、既存調査の従前値をもとに目標値を設定した。鎌倉地域は道路が狭く、従前値も低くなっているため、目標値も低くなっている。また、今回実施した事業が一部の道路のみ対象であったため、事業による満足度の上昇は限定的であったと考えられるため、達成状況も低くなったと考えられる。
志村委員長	指標2については17%が目標値となっているが、その根拠はあるのか。今後の計画を作るためのためにも、数値の設定根拠は説明出来るようにしておく必要がある。
事務局	設定根拠については確認する。
梶田委員	歩行者数や道路幅員などの係数を含めた新しい指標を作り出しても良いのではないかと考える。従来から市内に住んでいる人、他の地域から移り住んできた人、観光客でも感覚が違って来る。そういった部分について、係数等を用いることにより評価ができるのではないかと考える。鎌倉は特に道路が狭いので、今回のようにカラー舗装を施すことで、運転者も歩行者も安全に気を使うようになった。評価される部分はたくさんあるかと思う。もっと良くしていくためには、みんなで考えていかなければならないと感じている。
志村委員長	本来であれば、鎌倉の道路が市民にとっても観光客にとっても使いやすい、ベストなものがあるべきであるが、そういったものを計測する指標がないということも一つの課題である。例えば、道路毎でアンケートを実施したり、道幅と交通量を加味した指標を作るなど、鎌倉方式の評価基準を作成し、満足度を常に計測しておくこと、事業の計画も作りやすくなる。市民は狭い道路をうまく使って生活をしているが、観光客にとっては鎌倉の狭い道路は良い印象がないかもしれない。市民から観光客に道の使い方のアドバイスをする等、良いコミュニケーション、良い関係性が繋がっていければと思う。そのような事業も今後のまちづく

	りの課題として、書いてもらえればいいと思う。
高橋委員	その他指標 1 では観光客の増加が示されているが、観光客が増えることにより道が歩き難くなったり、交通事故が増える等もあると思う。今後のことを考えるにあたっては、クロス評価的なものも考えていかなければならないと思う。
志村委員長	市民、観光客がどう同居していくかというのは長年の課題であると思う。 21 ページの今後のまちづくり方策の新たな課題について、現案ではハード面が中心の記載になっている。前回の委員会でも話があった”電線地中化によりカラスが民家に集まるようになった”ということもあるのでそういった部分も新たな課題であり、記載してもいいと思う。カラスに対して、”東京電力で協道の電線に剣山を設置した”という対応の話もあったが、知らない間に解決していたというのではなく、そのようなプロセスも示していく必要があると思う。 アンケート調査等を実施している自治体はあるのか。
事務局	行っている例もある。安全安心な歩行者空間に関する満足度については、市全体の道路について問うものであったので、今回の事業のみによる満足度の上昇は明らかにできなかった。直接便益を受ける地域の方々へアンケート等で評価していただければ、違った結果が出てくる可能性があったと思う。この点については課題として捉えている。
志村委員長	効果のはかり方ということも重要であると思う。事業の中で効果測定を行う予算というのは組めるのか。
事務局	効果測定のための予算を組むことはできる。
志村委員長	事業による効果は出ていると思うので、効果のはかり方等で目標に対して未達成になってしまうのはもったいないと感じる。アンケート等で次への課題を吸い上げることもできるし、「聞いてくれる」が満足につながることもある。 観光客の声を聞くことは難しいでしょうか。
高橋委員	市の観光商工課ではアンケートも実施している。鎌倉に来る観光客はリピーターの方が多く、変化を感じている人も多いと思うので、声を聞くこともできると思う。
志村委員長	観光客の意見は、市民の意見とは視点が異なるもので、まちづくりに活かしていければ良いと思う。 定性的な効果の発現状況についてはどうでしょうか。
高橋委員	電線の地中化はとても良いことであるので、パブリックコメントでもあったがPRをもっとすることが重要であると感じる。
志村委員長	直接お褒めの言葉を頂くことはあるのか。
事業課 (観光商工課)	お叱りの言葉が多いが、観光で来られた方からお礼状を頂くこともある。
志村委員長	お褒めの言葉をどう集めるかが大切であると感じる。実施した事業に対して、市民等がどう感じているのか、知ることが出来るシステムがあれば良いと思う。今後のまちづくりの課題

	<p>として考えていければ良い。</p> <p>今後のまちづくりの方策や市民意見についてはどうか。</p>
梶田委員	<p>観光客のなかには、倫理観のない人が居るので、規制が必要だと思う。例えば、管理人のいない駐車場は、タバコが捨てられ、たまり場になっている。定期的に見回りを行わせるような指導も必要だと思う。</p> <p>また、観光客に求めていくことも必要である。観光客に寄付を募り、新しいトイレを作る時の資金にするなどしてはどうかと思う。また、テレビによってイメージが広がっている影響もあって、京都などと比べても、鎌倉では食べ歩きをしている人が多いと感じる。そのような人を減らしていくにはどうしていければ良いか考えている。短期的、長期的な視点を含めて今後の方策を考えていかなければならないと思う。</p>
志村委員長	<p>寄付金の箱は実際に設置しているのか。</p>
事業課 (観光商工課)	<p>寄付金については現在インターネットで募っている。平成25年から始めており、看板や地図等を寄付金で作成した。</p> <p>観光客のモラルについては、市民の方からも多く意見を頂いている。例えば、修学旅行で来る学生・児童等には、先生方に鎌倉歩きのマナーアップの冊子を渡し、指導するようお願いしている。</p>
高橋委員	<p>モラルについてはまちのイメージも重要なものだと感じている。</p> <p>観光協会では着物の似合うまちとしてのPRを始め、着物の方にはお店でサービスを受けられるなどの取り組みをしている。着物を着てくれれば気持ちも引き締まると思うので、モラルのない行動は少なくなると考えている。</p>
志村委員長	<p>観光PRも重要であるが、観光によって発生している問題もある。そのような問題を地域住民だけで抱えるのではなく、市民全体や観光客も共有する必要があると思う。</p> <p>ハードの整備が整ったところで、観光客やお店のマナーなど、ソフトの部分の課題が目立ってくる。それらの課題を整理し、今後活かしていくべきだと考えている。解決するための手法としては、広報や、市民と行政と観光客の相互コミュニケーションなどが挙げられるが、ソフト面の課題を解決していく事業についても記載して欲しい。</p>
梶田委員	<p>電線の地中化に関しては工事の調整等大変であったと思う。そういった行政の苦労も評価したいと感じた。</p>
志村委員長	<p>事業の苦労や成果、そこから起きた問題点などを市民、行政、観光客が共有していければ良いと考える。</p>
高橋委員	<p>市民、観光客や商業者の満足度はそれぞれ別にあると思うが、三者の満足度がバランス良く上がっていければ良いと思う。</p>

志村委員長	市民、観光客、商業者の三者をまとめることは難しいかと思うが、鎌倉の地区の特性を鑑みるととても重要なことである。三者をまとめるファシリテーターのような人がいれば良いなど感じている。 今回の評価シートにおいては、住民参加プロセスがない。本来であれば住民を巻き込んで話しをする機会があると良い。
梶田委員	三者でやっていくことは難しいことだが、やらなきゃいけないと思う。
志村委員長	市民側としても、クレームばかりでなく、行政がどのように考え、どのような事業をしているのか知る必要があると思う。
志村委員長	一通り審議させて頂いた。 今回頂いたご意見については可能な限り反映させて頂きたい。 評価面については、今回事業が限られた区間であったこともあり、目標に達していない部分もあった。実際に付近の住民の方等は事業の効果を感じられていると思うので、評価方法について、今後は再考していく必要がある。 今後のまちづくりの課題としては、今回の事業によりハード面は整備されたが、それに伴いソフト面の課題が発生してきているので、そういった面を改善していくといった方向でまとめていってほしい。
3. 今後のスケジュール	
事務局	・今後のスケジュールについて説明。
志村委員長	・閉会挨拶

(以上)

<委員会風景>

